

『完璧なアメリカ人』

～ジョージ・オーウェルに敬意を表する詩～

私の脳は縮んでいます。
ますます愚かになっています。
何時間ものテレビによって、
私の感覚は麻痺しています。

私はよくプログラムされた機械のように、
感情なしで働いています。
思いやりがほとんどありません。

私の生活は決まりきっています。
生産ノルマを達成することは簡単で、
それは、たいてい「正しい」と思われています。

しかし、私はどんな疑念や怒りも、殺さなければなりません。
なぜなら、批評家は落伍者のレッテルを貼られるからです。

実際に、ラオスは侵略されたのでしょうか？
チリでは、選挙に不正があったのでしょうか？
ワシントンが願ったので、ギリシャのリーダーは
いなくなったのでしょうか？
しかし、「事実」は記憶から消えていきます。

私は、まだ完全な市民ではないけれど、
政府によると
私は段々上手くやっていると、評価されています。

まもなく私は自由を愛する模範的なアメリカ市民になるでしょう。
ヤンキーは、指導者の命令には、いつも従う用意ができています。
それは、パブロフの犬と同じくらい従順だということです。

- T Newfields (和訳: 吉田典子)

開始: 1995 静岡市 ・ ♪ 完成: 2011 年 東京都





玲亜: ジョージ・オーウェルは、おそらくこの詩が好きです。

ティン: そう思いますか？ もう亡くなっている人が好きかもしれないことをどうやって確認することができますか？

ミン: (テッドを無視して) 基本的な問題は、DNA に依拠すると思わない？ 私はそういう考えが問題だと思う。

ティン: (ビールを注ぐ) うーん、多分。

悟: ユートピアは、単に遺伝子工学の問題ですか？

玲亜: 君は、マジで政府の力を過大評価しているね。

悟: (ゲップ) あなたは人の食欲さを過小評価している。